

# 平成 30 年度 千早赤阪村立学校園 評価報告書

学校園名（千早小吹台小学校）

校園長名（ 當麻 裕彦 ）

## 1. 教育目標

「やさしさと笑顔いっぱい为学校」をめざして

「豊かな心」 ・ 「確かな学力」 ・ 「健康な身体」

人の気持ちがわかる子・すすんで学ぶ子・元気でたくましい子

- 「ともに学び、ともに育つ」学校づくりのより一層の推進
- 学力向上の取り組みの充実
- 開かれた学校づくり

## 2. 経営方針

### ■「ともに学び、ともに育つ」学校づくりのより一層の推進（2年目）

- 集団の中で一人ひとりがお互いを尊重し、ちがいを認め合い、支え合う学級経営、学級集団、異年齢集団づくりに努める。
- 集団の中で子供どうしが互いにに関わり合う中で見えてくる課題を共に考えることを通して、違いを認め合い、一人ひとりを尊重し合う関係性を育む。
- ユニバーサルデザインの観点を取り入れた「授業づくり」と自尊感情・自己有用感を高める「集団づくり」の推進

### ■学力向上の取り組みの充実

- 自学自習力をつける。  
自主学習ノートの学校としての導入で自学自習力の定着と質の向上をめざす。

○授業の質を向上させる。

・授業規律の定着

授業スタンダードを示し、「めあて」「自分の考え」「ふりかえり」を大切に  
にした授業づくりを行う。

・言語活動の充実、「伝える力」「聴く力」の育成 音楽教育の充実

知識伝達型の授業形態ではなく、話し合い活動を授業の中に意識的に取り入  
れ、「伝える力」「聴く力」を高める。また、ノート指導を充実し、自分の  
考えを書き込むノート作りをめざす。

■開かれた学校づくり

○郷土である大阪府唯一の村、千早赤阪村に愛着と誇りをもつ子供たちを育  
むために、郷土学習、歴史学習、金剛山や棚田に親しむなど郷土にちなんだ学  
習を積極的に行う。

○地域の中の学校という意識をもち、地域社会の一員として家庭・地域・社会と  
つながり、支え合いながら、安心して過ごせる、明るく元気な教室、学校にす  
る。

### 3. 本年度の重点目標、具体的な取り組み内容、自己評価、次年度に向けての改善策

		I 学力向上と教育力の充実
P	重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自学自習力をつける。 自主学習ノートの学校としての導入で自学自習力の定着と質の向上をめざす。</li> <li>○授業の質を向上させる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業規律の定着 授業スタンダードを示し、「めあて」「自分の考え」「ふりかえり」を大切に した授業づくりを行う。</li> <li>・言語活動の充実、「伝える力」「聴く力」の育成 音楽教育の充実 知識伝達型の授業形態ではなく、話し合い活動を授業の中に意識的に取り入 れ、「伝える力」「聴く力」を高める。また、ノート指導を充実し、自分の考 えを書き込むノート作りをめざす。</li> </ul> </li> </ul>
D	具体的な取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○3年生以上が自主学習ノートに取り組み、自学自習力の向上を図る。意欲的に取り組 むための手立てについて、実践方法を交流した。</li> <li>○校内研究授業・公開授業実施 算数科、道徳、外国語活動、支援学級の研究授業を実施。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業スタンダードにのっとった授業展開の中、「ホワイトボード」「ペア活動」 「グループ活動」などを有効に取り入れた。</li> <li>・全学年で外国語活動実施し豪州公立小とのTV会議実施。「伝えたい」気持ちを高め、 「伝える力」を育成。・「音読研修会」を実施し指導力の向上を図った。音読発表会に 向けて、言語活動の充実を目標に音読発表会の「めあて」を設定し、保護者にも啓発 し、言語活動の充実を図る。・「ホームリーディング」年間2回実施。委員会児童の読 書啓発活動、ボランティアのおはなし会、図書室開放を実施。</li> <li>・ノート指導の研究「ノート見学ツアー」(2回)実施。各学年、目的別に選んだノート をもとに意見の交流をした。3年生以上が「ピカイチノート」を教室内に掲示し、よ り分かりやすいノートを明示した。</li> </ul> </li> <li>○音楽朝礼を設定し各学級の音楽活動を全校児童に発表。教職員も歌や演奏を披露する など、児童との繋がりを作り、音楽活動の雰囲気高める活動を実施。</li> <li>○学期毎に、職員全員での支援交流会を開催。支援の手立て、自立の道筋 を共有。SSW、SC、保健センター他外部機関と連携。</li> </ul>
C	自己評価／成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自主学習が少しずつ定着してきた。内容にも工夫が見られるようになった。</li> <li>○研究授業では、村教委、外部識者の指導助言を受け、授業力向上、授業改善に努めた。</li> <li>○児童の課題や成長に合わせた効果的な指導支援について、外部機関・スタッフと連携 し、理解を深めながら、職員全体で研修を進めた。</li> <li>○音楽に親しみ、表現することにより多く触れたことで、卒業式での歌声も参加者から 高評価をいただいた。また、歌声だけでなく伝える言葉についても高評価をいただい た。</li> </ul>
A	次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>○引き続き自主学習ノートの充実を図る。</li> <li>○よりよいノート作りを目指して、課題のあるノートを中心にして、その指導法につい て深めていく。</li> <li>○研究授業では、村教委、外部識者の指導助言を受け、引き続き授業改善に努める。</li> <li>○校内ミニ実技研修を充実させ、互いに良さを出しつつ磨き合う。</li> <li>○外国語活動 今年度の校内研究のテーマ「思いを伝え合う力の育成」を引き継 ぎながら、中心教科を「外国語科」「外国語活動」とし、新学習指導要領に 向けて、授業の展開と評価について深める。</li> <li>○読書活動→推進継続</li> </ul>

### 3. 本年度の重点目標、具体的な取り組み内容、自己評価、次年度に向けての改善策

		Ⅱ 豊かでたくましい人間性の育成
P	重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ユニバーサルデザインの観点を取り入れた「学習環境づくり」「授業づくり」と自尊感情・自己有用感を高める「集団づくり」の推進</li> <li>○思いを伝え合う力の育成               <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達との対話を通して、他者理解を深め、自分の考えをわかりやすく伝える力を育成する。～外国語活動・道徳科を通して～</li> <li>外国語活動（会話を通して互いを理解し、他者理解を深める）</li> <li>道徳科（自己の生き方についての考えを深める）</li> </ul> </li> <li>○食育の充実（食に関する指導の全体計画に基づいた食育の充実）</li> <li>○体力づくりの推進（アクションプランに基づいた健康安全・体育的行事の実践）</li> </ul>
D	具体的な取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全教職員が「ユニバーサルデザイン」の学校づくりという重点目標を強く意識し、日々の全教育活動の中で実践。</li> <li>○外国語活動・道徳科を通して他者理解を深めたり、自己の生き方について深めたりする。</li> <li>○保健主事、保健給食担当と連携した栄養教諭による食育授業、給食時間帯の食指導。アレルギー対応マニュアルに基づく面談を毎月実施。</li> <li>○アクションプランに基づいて計画的に健康安全・体育的行事を実施</li> </ul>
C	自己評価／成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○支援学級担任を中心にして学力向上・研修部から「みんながまなびやすい千早小吹台小学校をめざして！」という冊子を提案し、全教職員が「ユニバーサルデザイン」の学校づくりという重点目標を強く意識し、日々の授業を実践した。</li> <li>○外国語活動・道徳科を通して他者理解を深めたり、自己の生き方について深めた考えを互いに分かりやすく伝えようとした。</li> <li>○道徳の教科化に伴う評価について年間を通じて実践的な研修を行うことで各担任の所見力が向上し児童に肯定的に伝えることができた。</li> <li>○「おはしの使い方」「おさかなの食べ方」等の授業を栄養教諭と担任が協力して実践し成果をあげた。保護者向けにも給食試食会に合わせた食育（親学習）を実施でき、成果があった。</li> <li>○スポーツテストの結果では、ほとんどの項目において大阪府の平均を上回っていた。課題である握力については、全学年で強化運動に取り組んだ。</li> </ul>
A	次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ユニバーサルデザイン教育→支援学級が3クラス体制の3年目となり、より一層の充実を目指す。</li> <li>○道徳教育の推進→通知表に具体的に評価を実施。研究授業や評価研究の継続</li> <li>○食育の充実→村の食育担当者連絡協議会の内容も反映しながら、より一層の充実。「おさかなデー」などの取り組みの継続。</li> <li>○体力づくり→なわとび教室に重点を置き全学年でなわとびの技能を高める。運動会 マラソン大会などは「めあて」をしっかりと共有した取り組みを行う</li> </ul>

### 3. 本年度の重点目標、具体的な取り組み内容、自己評価、次年度に向けての改善策

		Ⅲ 安全安心な学校づくりの推進
P	重点目標	<p>○防災教育の充実・生命尊重の取り組み 大規模災害を想定した地域、行政等と連携した取り組み。主体的に判断・行動する力を育む防災教育・安全教育の推進</p> <p>○いじめのない学校づくり 基本方針に則し、情報共有、アンケート実施と分析を生かしたいじめの早期発見と早期対応、SC・SSW・家庭児童相談員との効果的な連携</p>
D	具体的な取り組み内容	<p>○防災教育の充実・生命尊重の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・防災学習週間を設定して大阪管区気象台提供の教材を利用した防災教育を実施。</li> <li>・5年生対象に、「大雨・洪水・落雷・竜巻から身を守ろう」というテーマで、理科と合科の授業を実施。(大阪管区気象台からは災害のため不参加)</li> <li>・計画的に防災訓練を実施、予告しない避難訓練を大きな避難訓練の事後に実施し定着した。</li> <li>・児童引き渡し訓練を参観日に実施。</li> <li>・防災士を講師に招いての研修会を区長や保護者の参加も得て実施。</li> </ul> <p>○職員全体で、「気になる子どもの様子」を頻繁に情報交換。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「こころとからだ、くらしのアンケート」を月に一回実施し、児童の様子を把握。必要に応じて「いじめ・不登校対策委員会」を開催。</li> </ul>
C	自己評価／成果と課題	<p>○5年生の大阪管区気象台等の防災授業は、今年度は台風等の風水害のため、来られなくなったが、今までの経験と教材を活かし、担任で実施できた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・引き渡し訓練は保護者にも浸透してきている。昨年度の反省を生かし、より簡素化して実地的なものにして実施した。</li> <li>・遊放時に予告しない避難訓練を実施している成果があり、6月の大阪北部地震、3月の震度3の地震時にも、混乱なく落ち着いて職員が的確に行動し、児童に避難行動をさせるなどの対応ができていた。</li> </ul> <p>○子供が直面する課題、いじめの早期発見など、複数で、また、チームで対応していた。外部組織の担当も入ったケース会議も開催し対応できた。</p>
A	次年度に向けて	<p>○避難訓練→学期に1回、児童に事前に知らせない避難訓練を引き続き実施。</p> <p>○これまで積み重ねてきた防災教育の維持。</p> <p>○「心の体とくらしのアンケート」を毎月実施の継続。職員会議に近い時期の実施として全教職員で情報共有。</p>

### 3. 本年度の重点目標、具体的な取り組み内容、自己評価、次年度に向けての改善策

		IV 開かれた学校づくり
P	重点目標	<p>○郷土である大阪府唯一の村、千早赤阪村に愛着と誇りをもつ子供たちを育むために、郷土学習、歴史学習、金剛山や棚田に親しむなど郷土にちなんだ学習を積極的に行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校支援地域本部活動の活性化と安定した運営組織づくりを行う。</li> <li>・地域の中の学校という意識をもち、地域社会の一員として家庭・地域・社会とつながり、支え合いながら、安心して過ごせる、明るく元気な教室、学校にする。</li> </ul>
D	具体的な取り組み内容	<p>○学校支援地域本部の組織の維持。学校支援地域コーディネーターを位置づけての実施。学校支援地域本部総会の実施</p> <p>○登下校の見守り、金剛登山引率支援、クラブ活動支援、花育、読み聞かせ、陶芸教室、家庭科授業支援、放課後学習を学校支援地域本部事業として位置づけて実施</p> <p>○防災研修会への参加依頼。PTA活動（子ども110番の旗の家、危険箇所看板作り・設置）、PTA学級事業、給食試食会・学習会 子ども安全見守り隊のボランティア日常活動。</p>
C	自己評価／成果と課題	<p>○学校支援地域本部→地域コーディネーターを3名位置づけ毎月の定期会議を開催。6月と2月に「総会」を開催。ボランティア支援活動の成果と課題を共有し、地域支援コーディネーターを核とした組織的活動の維持ができています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1年の活動をまとめたプリントを配布し、来年度の活動につなげている。</li> </ul> <p>○防災研修会を実施し参加を呼び掛けた。今年度は保護者のみの参加となったが、恒例になりつつあるため、来年につながると考えられる。</p> <p>給食試食会での親学習を実施し、保護者への貴重な啓発の機会となった。</p>
A	次年度に向けて	<p>○ボランティア支援→ご協力いただける範囲で継続。</p> <p>音楽の授業での支援を追加。</p> <p>○学校支援地域本部→地域コーディネーターを核とした組織で活動推進。</p> <p>○防災行事→継続実施。</p> <p>○子ども安全見守り隊の方へ→継続依頼。啓発グッズの配布</p>

## 4. 教育自己評価

### 【教職員による評価】

- ・攪乱「自己評価／成果と課題」の通り

### 【外部アンケート等】保護者による学校診断アンケートより

#### I 学力向上と教育力の充実

- ・基礎的な学力が定着に身についている 肯定的評価 → 96%
- ・授業は工夫されていてよく分かる 肯定的評価 → 90%

#### II 豊かでたくましい人間性の育成

- ・豊かな心をもった子供を育てている 肯定的評価 → 93%
- ・いろいろな体験学習に積極的に取り組んでいる 肯定的評価 → 90%

#### III 安全安心な学校づくりの推進

- ・安全に日頃からよく気配りしている 肯定的評価 → 95%

#### IV 開かれた学校づくり

- ・学校は、保護者・地域の願いに応えている。 肯定的評価 → 92%
- ・学校全体の雰囲気は、明るく活発である。 肯定的評価 → 98%

#### 〈その他自由意見〉

- ・ボランティアの方がクラブの支援等もしていただいている、すごくありがたいと思います。

## 5. 学校園関係者評価

【学校評議員会（6月25日・3月5日開催 及び年間を通じての提言）より】

○ユニバーサルデザインの考え方やそれを学校教育目標に取り入れていること、また、学校全体で取り組んでいることはたいへんよい。

○会社でも上司の指示伝達がうまくできないということが社会人の中でもある。「何度言ったらわかるのか。」ではなく、見通しや段取りをわかりやすく示す工夫は他の子や人にとっても助かることである。障がいがあるという人だけを対象とするのではない。ユニバーサルデザインの取り組みは大変良い。

○情報交換や情報の共有は大切であるから、本校でのチームとしての取り組みはよい。

○「大阪北部地震」での対応について

災害はその場その場の判断が大切である。本校が登校児童を学級に入れた後先生が各教室において安全確認された行動はその時の判断でよいと思う。

○単に、人数が多いから良い、少ないから良くないということではなく、少人数の学校の良さと弱みをよく分析して取り組むことが大切である。少人数だからこそできることがある。集団づくりの工夫もできる。

○学力向上の「自主勉強ノート」の取り組みについて

大学生になっても受け身の学生が多い。自学自習ノートの取り組みは、主体的に世の中を生きていく「生きる力」にもつながる。

○「学校支援地域本部」の取り組みについて

組織図をみても、色々な方が本校に関わっていることがわかる。地域の人目があることで、子供たちも先生方も日々の生活の中に地域目を感じることができていたのではないか。このように第三者の評価を受けていることは学校運営の中でもプラスにはたらくと考える。

○大阪府唯一の村の郷土にちなんだ教育をもっと取り入れて頂きたい。楠木正成や千早城跡の歴史など歴史に関する学習や村の自然を生かした学習などで児童にもっと千早赤阪村について知ってもらいたい。

○学校のホームページを拝見していると充実している。

○学校支援地域本部や学校ボランティア活動の様子をうかがうと、地域に信頼されている学校だからこそその活動だと思われる。今後もより一層の充実を求める。

○学べたことの楽しみこそが楽しい授業につながる。活動があるけれど学びがないという授業をする学校もあると聞く。授業についてはこのように考える。

## 6. 第三者評価

### 【地域のボランティアの方より】

- 学校でボランティア活動をして子どもと関わらせてもらうことで、こちらも元気をもらえる。
- 子供と関わる機会を与えてもらっていることがうれしい。
- 地域に学校があって、子どもの声が聞こえるというのは地域の活性化にはとてもよい。
- 子育てするには千早赤阪村が素晴らしい環境であることを外向けにもっとアピールしてほしい。

### 【大学教授による校内研修会での指導助言より】

- 本校が出版した外国語活動「We Can!の授業&評価プラン」「Let's Try の授業&評価プラン」の指導実践集はこれから外国語活動を実践しようとする全国の小学校の役に立っている。授業をみても、子供たちがここまで自然に英語に慣れ親しんでいる学校は全国的に見てもなかなかない。今後も実践をつんで、読む、書くという活動を取り入れた授業実践の研究を進めてもらいたい。